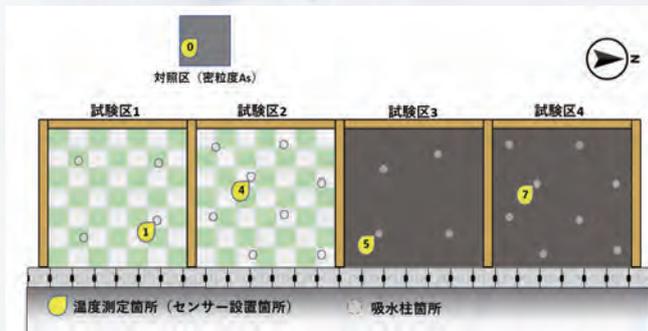


地下水を活用したFWG透保水性舗装の温度測定結果

透保水性舗装は、路盤内に保水されている間は、路面の温度上昇を抑制する効果があるが、水がなくなると効果はみられなくなる。このため、地中の水位が高く、保水した状態を長期間作り出せる可能性がある、SAGA サンライズパーク（佐賀市）の一面において、2022年6月9日から10月4日までの118日間、FWG透保水性舗装工法の4つの試験区と対照区との温度差を測定した。

FWG透保水性舗装工法の試験区

	試験区1	試験区2	試験区3	試験区4	対照区
舗装種類	透保水性インターロッキングブロック		透水性アスファルト		常温アスファルト混合物
吸水柱(/㎡)	1	2	1	2	—



表面温度の比較

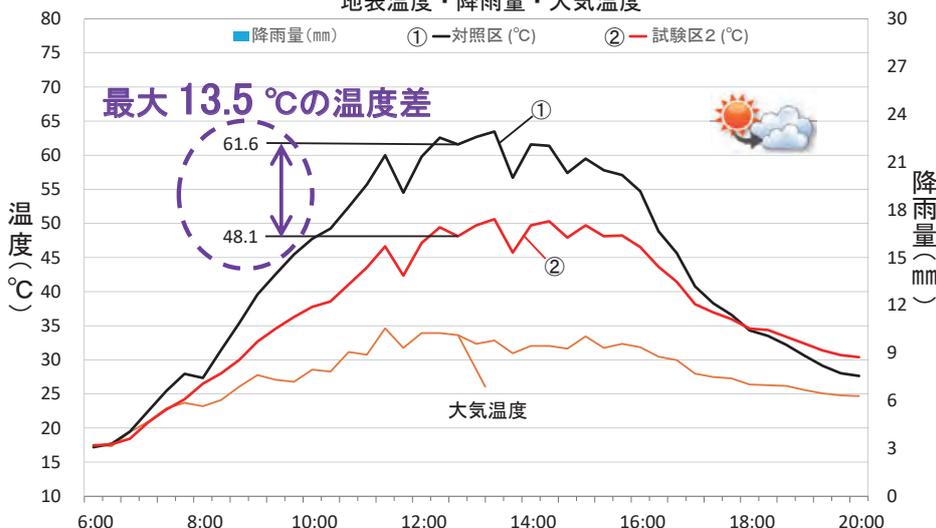
試験区2（透保水ILB・吸水柱2本/m²）では、対照区との間で6月9日に最大13.5℃。10℃以上の温度差は計25日、これらを除いて最大5℃以上の日は合計88日で、74.6%。

表2 各試験区における最大5℃、10℃以上の差が確認された日数と最大温度差

試験区	5℃≤ <10℃	10℃≤	合計(全体に占める割合)	最大の温度差
1	68日	3日	71日 (60.2%)	11.4℃
2	63日	25日	88日 (74.6%)	13.5℃
3	45日	1日	46日 (39.0%)	10.0℃
4	65日	1日	66日 (55.9%)	10.4℃

※温度上昇を抑制する効果は、透保水ILBの方が透水性Asよりも、また吸水柱2本区の方が吸水柱1本区よりも、それぞれ発現していることが確認された。

SAGAサンライズパーク 温度測定 2022/6/9
地表温度・降雨量・大気温度



サーモグラフによる比較

